

# テーマ探索研究会・第142回「産学官交流」合同講演会

## 『静岡の大地のしくみ、災害・防災を考える』

主催：静岡市清水産業・情報プラザ（指定管理者：静岡商工会議所）

共催：新産業開発振興機構（テーマ探索研究会）

今回の産学官交流講演会は、静岡商工会議所新産業開発振興機構（テーマ探索研究会）との合同講演会とさせていただきます。静岡の地震、災害や防災についての講演をしていただきます。ぜひこの機会にご参加いただき、今後の事業活動等にお役立ていただきますようご案内申し上げます。多数の方のご参加をお待ちしております。

開催日時 2022年12月20日（火）

講演会 16:00～18:00

会場 ホテルグランヒルズ静岡 4階クリスタルルーム  
静岡市駿河区南町18-1

講演1 『休日災害』

静岡大学 防災総合センター・センター長 教授 北村晃寿氏

講演2 『静岡の地震と火山 ～大地のしくみを学ぶ～』

静岡県立大学 学長 尾池和夫氏

参加料 無料

定員 会場聴講 50名

申込方法 下記申込書に記入してFax、E-mailで申し込み下さい。

\*コロナ禍の開催となりますので必ず電話番号、メールアドレスをご記入下さい。

事務局 静岡商工会議所 産業振興課（担当：岸端、堀川）

TEL:054-355-5400 FAX:054-352-7817 E-mail:info@siip.jp



※申込書にご記入いただいた情報は、静岡商工会議所からの各種連絡・情報提供に利用する事がありますことをご了承下さい。

### テーマ探索研究会・第142回産学官交流合同講演会 参加申込書

2022年12月20日（火）開催

Fax 054-352-7817

事業所名			
参加者名（役職）	（ ）	（ ）	
所在地		TEL	
※e-mail			

※申込書にご記入いただいた情報は、当日名簿として利用するほか、商工会議所からの各種連絡・情報提供に利用する事がありますのでご了承ください。又、今後の『産学官交流会』のご案内を送付させていただきます。

（原則 E-mail 案内とさせていただきます。）

## 講演1 『休日災害』

静岡大学 防災総合センター・センター長 教授 北村晃寿氏

昨年(2021年)7月3日(土)10時頃、熱海市の逢初川源頭部にあった盛土の崩壊により土石流が起き、死者・行方不明者28人、全・半壊家屋64棟の被害をもたらした(以下では熱海土石流災害)、今年(2022年)9月24日(土)2時頃、台風15号に伴う豪雨で静岡市清水区を中心に広範囲に及ぶ浸水が起き、床上浸水4,292棟(2022年10月31日、静岡市)、被害車両は3万台とされる(以下では2022静岡豪雨災害)。演者は熱海土石流災害の発災日に現地に行き、盛土・土石流堆積物の分析を行っており、11編の論文を公表した。2022静岡豪雨災害では9月24~27日に巴川沿いの7.5km間の85地点の浸水深を測定し、防災総合センターのHPとYouTube(<https://www.youtube.com/watch?v=DM3QKgeqHAg>)でデータを公開している。両災害の対応検証報告は出されていないが、演者は調査を通じて、両災害ともに初動対応への休日の影響を感じた。本講演では、企業防災における休日災害への初動対応の再検討の参考になることを期待し、演者の調査経験などを紹介する。



【略歴】1990年3月に、金沢大学大学院学術博士号取得。1991年4月より京都大学理学部地質学鉱物学教室の日本学術振興会特別研究員、1993年10月より静岡大学理学部地球科学科の助手、助教授を経て現職に至る。2016年に日本学術会議協力学術研究団体の防災学術連携体の日本古生物学会委員に就任、2020年4月に防災総合センター・センター長に就任。2021年8月より日本第四紀学会副会長に就任。2020年に「静岡の大規模自然災害の科学、岩田孝仁・北村晃寿・小山真人編 静岡新聞社」を出版。主な研究分野は、第四紀学、古生物学、津波堆積物など。

## 講演2 『静岡の地震と火山 ~大地のしくみを学ぶ~』

静岡県立大学 学長 尾池 和夫氏

南海トラフに起こる次の大規模な地震は、2038年頃と予測しています。南海トラフの大地震は、近未来に必ず起こる地震であり、起こるのは明日ではありません。1995年の兵庫県南部地震から27年、地震活動期の西日本では、まだこれからいくつかの活断層で大地震が起こります。1995年以来60年ほど続く今回の地震活動期のピークに南海トラフの大地震が起こります。

日本列島は四季の変化に富む中緯度に位置する変動帯の大地です。4枚のプレートが押し合う列島の基本的な自然は、地震と噴火と津波です。プレート運動で、日本列島と大陸の間に若い海底が完成しました。それが日本海で、今から1600万年ほど前のことでした。その海に暖流が流れ込み、そこから冬でも蒸発する水を大陸からの風が吹き寄せて、日本列島に豪雪地帯を生み出しています。

典型的な活断層盆地である京都盆地には、世界的にも珍しい城壁のない都が生まれ、地下水による文化が生み出されました。このように活断層運動でできた盆地や平野の豊かな自然を享受しながら育まれた文化を、私は「変動帯の文化」と呼びます。その歴史を語ってみたいと思っています。

静岡県は日本列島の中央部に位置しており、糸魚川-静岡構造線や中尾構造線、日本一高い富士山や深い駿河湾を持つ地域です。その静岡県の地震活動を観察すると、南アルプスや富士山のように、2011年の東北地方太平洋沖地震の強震動に誘発された小さな地震の発生頻度の上昇があり、伊豆半島付近のようにマグマ溜まりの反応があることがわかります。富士山はすでに噴火の時期を過ぎている状態だという研究論文もあります。そのような静岡県の特徴も解説したいと思います。

さらに、これから起こるであろう日本列島の地震活動の予測についても解説しながら、変動帯の列島に暮らすための心構えの基礎となる知識をお伝えできればと思っています。



【略歴】1940年5月東京生まれ高知育ち、1963年京都大学理学部卒業。同年より京都大学にて教鞭をとり、2003年から約5年間京都大学二十四代目総長を務め2013年から8年間京都芸術大学学長を務める。2018年には静岡県公立大学法人理事長に就任し、令和3年度より県立大学の学長を兼務する。地球科学者、俳人。